総合学術調査報告書発刊によせて

東みよし町長　川　原　義　朗

阿波学会紀要第59号「東みよし町『旧三加茂町』総合学術調査報告」発刊にあたり，一言ご挨拶を申し上げます。この度，阿波学会小林会長様はじめ会員皆様のご尽力により，三加茂地域の学術調査が実施され報告書が発刊されますこと，心からお慶び申し上げますと共に，調査・編纂に携わってこられた関係者の皆様のご労苦に対しまして心からご慰労と感謝を申し上げます。

今回の調査は平成23年末，小林会長より旧三加茂町の調査をもって県内全域すべての学術調査が完了するとのお話をいただき，平成24年度事業として取り組んでいただくこととなりました。昨年７月には厳しい暑さの中，関係者多数のご出席をいただき調査団を結成，以来，15調査団約100名の方々により広範囲かつ専門的な分野をもっての学術調査を実施していただきました。

12月に開催された調査報告会では，８分野について調査の中間発表をしていただきましたが，三加茂地域の歴史や水質・自然環境について学術的にも，また，実態把握の面からも非常に内容が濃く，あらためて町の姿を認識するものでありました。

三加茂町は，昭和34年に「加茂町」と「三庄村」の合併によって誕生し，平成18年の平成の大合併まで約47年間，特別天然記念物「加茂の大クス」を町のシンボルとして地域の伝統，文化を継承しながら町の歴史を重ねて参りました。

町には，今から7000年前，縄文時代に人々が暮らしたとされる遺跡や，国指定の丹田（たんだ）古墳など数多くの歴史的文化も残され，その保存・伝承においても，それぞれの時代を，それぞれの地域の方々のお力添えをいただきながら脈々と受け継がれてきました。

吉野川の恵みを受けた肥沃な大地と，四国山地に抱かれた広大な森林資源，その豊かな自然環境は古くから人々を育み，生活を支え，町の発展に大きく寄与して参りました。

しかしながら，激動の時代の到来，高度成長期の終焉（しゅうえん），少子高齢化・過疎化という波は中山間地域に大きなうねりとなって押し寄せ，郷土に再度転換の時期をもたらしました。時代の流れとはいえ，地域の文化や住民の生活環境，そして自然環境にも大きな変化を与えたことも否めません。

これまで，私たちはどのような経験から何を得，また過去に残してきたものは何だったのか。今回の調査報告により明らかにされたふるさとの歴史について今一度検証し，その成果をこれからのまちづくりに活用すると共に，大切な自然や文化遺産を次の世代へと引き継ぐべく努力をしてまいりたいと考えております。

結びにあたり，総合学術調査団の皆様方，そして，今回の調査にご協力いただきました方々に心からお礼申し上げますと共に，阿波学会の今後益々のご発展と，会員各位の一層のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ発刊のお祝いと，お礼の言葉とさせていただきます。